

ポートフォリオとお薬手帳

内山 充

お薬手帳の活用と普及が、薬剤師の実地活動の中での重要な課題となって久しい。現状では、かなり浸透・普及してきているように思える。しかしまだ薬局や病院で、お薬手帳を勧めるポスターなどをしばしば見かける。

薬剤師の生涯学習を実質的で効果の高いものにするために、自己の生涯研鑽に関連する学習記録を手元に保存するためのポートフォリオ(学習記録)の励行が必要であることは、これまでに繰り返し述べてきた。しかし、まだ広く実用化はされていない。

お薬手帳とポートフォリオとは、極めてよく似た意義と目的と効果を持っていることをお気づきのことと思う。片や使用医薬品の効果と安全性を高めて患者の健康回復を促進するための、医薬品の使用歴であり、患者と医療者とのコミュニケーションを図る良い手段ともなる。他方は、生涯学習の経緯と成果を確認して薬剤師の資質向上を助けるための、学習の記録であり、生涯研修プロバイダーとの意思疎通のツールにもなる。

お薬手帳は患者の体を守り育てるために必須の記録であり、ポートフォリオは薬剤師の職能を維持し高めるために必須の記録である。ともに最終目的は、医療の向上と人々の健康に貢献するところに収斂する。

薬剤師が患者に対して、いろいろなメリットを示して「お薬手帳」を勧め、普及に努めているなら、薬剤師自身が自らの職能向上のためにポートフォリオを実践、実用するのは当然といえる。

さらに、お薬手帳についていえば、医療情報が必要な時に何処でもすぐに使えるように使用医薬品の記録(薬歴)を残すための手帳であり、患者個人に持ってほしい、と強調されている。それならば、ポートフォリオも、自己研鑽のための研修歴の証拠であり、目標設定や学習計画、あるいは成果の評価や反省等、後日に役立つ貴重な財産となるので、目的に応じていつでも使えるように薬剤師個人に持っていてもらいたい。

お薬手帳は、患者の意思に基づく複数の薬局あるいは医療機関における医薬品の使用記録である。ポートフォリオも薬剤師が自らの計画によって選んだ複数のプロバイダーの研修をまとめて記録することに意義がある。お薬手帳を、特定の医療機関が管理することなど、とても考えられないように、ポートフォリオも、記載と保存は電子媒体でもよいが、研修を受ける薬剤師が自分自身で管理するものであり、特定の組織によって管理されるべきものではない。

ともあれ、ポートフォリオの必要性は疑いのないところである。是非すべての薬剤師が持つように心掛けてほしい。現状ではポートフォリオの一定の形式はできていないが、各プロバイダーが作成・交付している「研修手帳」が今のところポートフォリオの代用として適当であろう。医療環境や民俗性の差があるから他国の形を踏襲するのも一概に良いとはいえない。現在、日本薬剤師会の生涯学習委員会による試行をはじめ、二三のプロバイダーが既にポートフォリオを実用化していると聞かすが、それらを出発点として、全国のプロバイダーの間で十分に検討して、いろいろな立場の薬剤師に総合的に適用できるポートフォリオの雛形が出来上がるのも近いのではないかと期待している。

(2011. 9. 7)